



特集 **大学生活の実際**
キャンパスは時代を映す鏡

大正10年(1921年)、 日本初のコンクリート校舎完成

シリーズ 甲南学園の20世紀 **2**

大正10年(1921年)

大正6～8年、臨時教育会議が総理大臣の諮問に応じて教育制度の改革案を答申した結果、専修科4年・高等科3年の7年制高等学校の制度が認められました。かねてから一貫教育を主張していた平生鈇三郎は、いち早くこの制度に着目し、甲南中学校を7年制高等学校にしようとした決心しました。高等学校の建設にあたっては、伊藤忠兵衛(平生鈇三郎の後継者と目されていた人物。平生の没後、甲南学園理事長に就任。後の伊藤忠商事会長)が、長期の安全性を考慮し、欧米で流行していた鉄筋コンクリート造りを強く主張しました。校舎の建築様式については、理事の多くは木造を考えていましたが、平生は鉄筋コンクリート造りに賛成し、大正9年2月に施工を開始。そして大正10年4月(1921年)、ついに日本初のコンクリート校舎(西館)が完成したのです。全国の高等学校で鉄筋コンクリートを採用したのは甲南が初めてでした。



威風堂々とした風格ある佇まいが、当時の教育思想を偲ばせます。

インターネットで甲南大学

<http://www.konan-u.ac.jp>

平生鈇三郎のつとめ

「教育ばかりは大量生産ということができない。平生鈇三郎は、私は斯う思ふ(昭和11年発行)より」

特集

大学生活の 実際

キャンパスは
時代を映す鏡

甲南大生ライフスタイル・アンケートより

21世紀を目前にひかえた現在。成熟した消費社会を背景に自由なライフスタイルや、新しい価値基準が誕生。情報社会としてさまざまなコミュニケーションツールが登場し、また、学生達の生活は格段に豊かになりました。

そんな時代の変化とともに、大学生のライフスタイルは、どのように様変わりしているのでしょうか。

今回は、甲南大生にアンケートを実施し、寄せられた、225通の中から浮かび上がった、そのリアルな実像についてレポートします。

甲南Today No.2
2000.9.25
大学の未来が見える

目次

Discover Konan 甲南大学・再発見 『学習院戦の樹』	2
特集 / 大学生活の実際	3
甲南大生のライフスタイル 共存する多様化と画一化 類型化されたスタイルと自己主張のはざままで	4
甲南大生のライフスタイル 甲南大生の胸の内	8
ある甲南大生の日常 河野雅広君の場合 / 武井あゆみさんの場合	10
甲南 Campus Tour	12
Seminar 渡辺ゼミ Laboratory 無機工業化学研究室 Box Close-up 体育系/陸上競技部 文化系/能楽研究部	
KONAN 21 2001年 新生甲南大学誕生	14
甲南大学の教員が執筆したブック紹介	15
Konan Spirits 世代を越えて受け継がれる甲南スピリッツ	16
甲南通信 TOPICS 就職情報 甲南フォーラム EVENT GUIDE	17
シリーズ / 甲南学園の20世紀	20

Discover
Konan

甲南大学・再発見 学習院戦の樹

昭和31年から甲南大学と学習院大学が毎年、開催している伝統の大会、学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦。その第25回記念と第41回記念として植樹されたのが『学習院戦の樹』です。まず最初に、第25回記念として昭和56年4月25日に月桂樹を、次いで第41回記念として平成8年4月27日に山ももが植樹されました(学習院大学にも、昭和55年と平成7年に月桂樹が植樹されています)。双方とも現在、2号館西側の場所に植えられています。

キャンパスの一隅で、そっと学生達の姿を見つめ続けてきた『学習院戦の樹』 あなたの知らない甲南大学の歴史が、こんなところにもあります。



第25回記念の月桂樹



第41回記念の山もも



今回の表紙

日ごとに秋色が深まる9月。甲南大学は、いよいよ後期のスタートです。夏休みを終えリフレッシュした学生達の生き生きとした表情が、キャンパスにもどってきました。



読書量と新聞
雑誌や教科書以外の読書量に関

授業態度と
日常の予習・復習

授業中に「ほとんどノートはとらない」という学生は少数でした(図D)。とはいえ、すべてノートしている学生は、約半数しかないというのも事実で、「はじめから人のノートをあてにしている人を見ると、くやし。自分も含めて、がんばっている人達がばかりに思えてしまうから」というコメントもありました。また、授業に「遅刻はしない」が29.9%、「たまに遅刻をする」が49.3%で、遅刻する割合が遅刻しないより上回っています。予習・復習については、「たまにする」も含めて予習は29.4%、復習は37.3%という結果に。また「途中で出席しなくなった授業がある」は年次が上がるにつれ増加する傾向にあり、1年次7.5%、2年次8.5%、3年次11.9%、4年次12.9%。



図書館利用状況

約3割の学生が、週に1回以上は図書館を利用しており、月に1〜2回の利用者も含めると、7割を超えます(図G)。その傾向を学年別で見ると、(月1〜2回以上の利用者内訳)3年次が最も多く(29.4%)、次いで1年次の27.5%という結果になりました。

課外活動編

課外活動が活発な甲南大学
甲南大学では、学園創立以来、学問だけに与られない人間性を育む教育を重視してきました。この精神は、現在も受け継がれ、たとえば、全体の約半数がクラブ・サークル活動に所属(図E)。



甲南大生の
ライフスタイル

時代の流れとともに、変化してきたと言われる大学生。しかし、実際、大学生はどんな生活を送っているのでしょうか。甲南大生を対象にアンケート調査を実施。学業、課外活動、生活の3つを柱に50の質問に答えてもらいました。

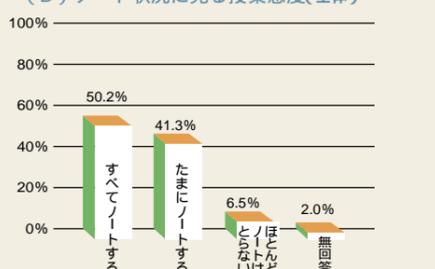
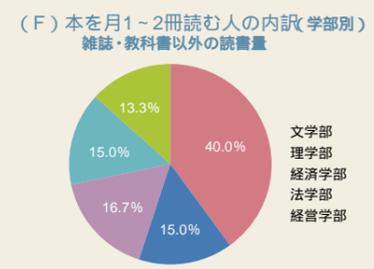
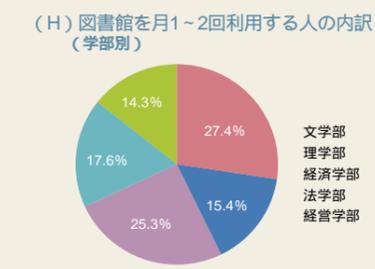
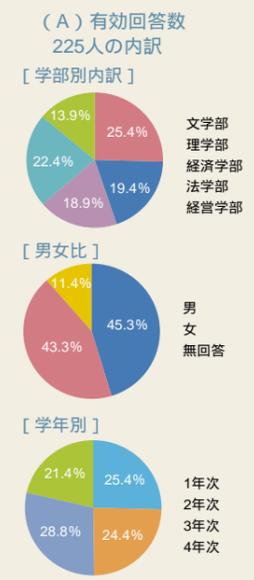
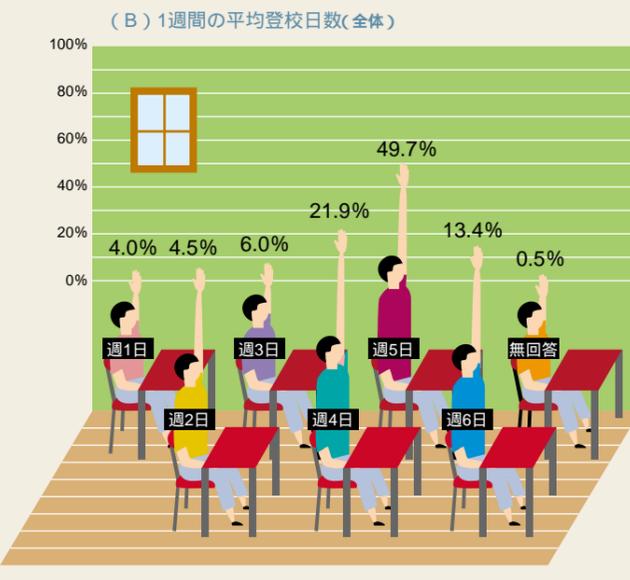
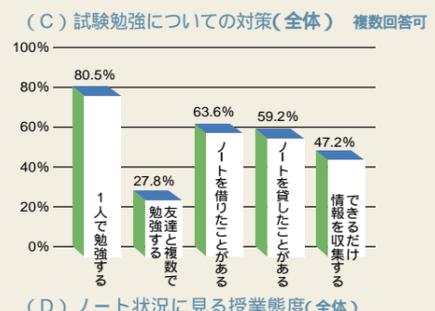
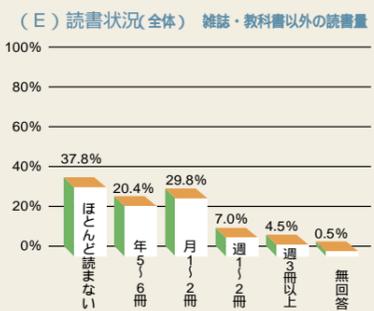
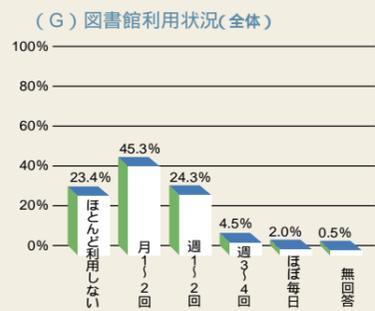
学業編

登校日数
全学年平均では、週4〜6日に集中していますが(図B)、学年別に見ると週5日登校する学生数は、1年次が飛び抜けて多く(84.3%)、次いで2年次(55.1%)、3年次(37.9%)、4年次(18.6%)と続きます。逆に週1〜3日しか登校しないのは、1年次は0%、対して4年次になると53.4%に増加。年次を経ること

に登校日数が減少していることがわかります。

試験勉強

試験勉強は「友達と複数で勉強する」より、「1人で勉強する」が圧倒的に上回りました。また、試験対策として、ほとんどの学生がノートの貸し借りをしているのも特徴です(図C)。男女別で比べても、この傾向はほとんど変わりません。



共存する多様化と画一化。
類型化されたスタイルと
自己主張のはざままで



現代の学生は情報社会や消費社会を背景に育っています。あらゆる情報やモノがあふれる中、人と人とのコミュニケーションも大きく

変化したといわれる大学生、しかしその本質は変わらず。約8割の学生が自宅から大学に通っています(図M)。さらに部屋の広さは自宅生・自宅外生ともに6〜8畳未満が最も多く、それぞれ52.2%(自宅)、45.2%(自宅外)という結果となりました。

食生活と喫煙

自宅生の51.6%は三食しっかり食べているのに対し、自宅外生の59.5%はたまに食事を抜いています。また、飲酒は「全く飲まない」「ほとんど飲まない」「月に1〜2回」を合わせて全体の35.3%。タバコは吸わない人が全体の75.1%で、飲酒量も喫煙率もかなり低いことがわかりました。



23.9%の学生がなんらかの形でボランティア活動に参加した経験を持っています。学年別に見ると3年次が最も多く(29.3%)、

生活編

クラブ活動を開始した動機。63.4%の学生が自主的にクラブ活動を始めており、勧誘されて(36.6%)の約2倍という結果です。勧誘されて始めた学生でも、未経験だが挑戦しようと思ったという人が圧倒的に多く、総じて新しいことに対する学生の積極的な姿勢が浮かび上がりました(図J)。

どの程度の時間をクラブ・サークル活動にあてているかを見ると、週2〜3日が最も多く(34.4%)、1日あたりの平均活動時間は2〜4時間が中心(63.1%)でした。ほぼ、毎日活動している学生も、男女それぞれに1割以上あり、中には1日6〜8時間活動するという学生も(10.0%)。

男女差もほとんどありませんでした。

く変わってきました。たとえば、キャンパスでも昔は団体行動をする学生が多かったのに対し、今は2〜3人での行動が中心。これは携帯電話の普及をはじめ情報環境の変化によるところが大きいようです。団体行動なしでもしっかりとした連携が可能というわけですから、スタイルの違いはありますが、今も昔も、学生間の絆の強さは変わっていません。

約8割の学生が自宅から大学に通っています(図M)。さらに部屋の広さは自宅生・自宅外生ともに6〜8畳未満が最も多く、それぞれ52.2%(自宅)、45.2%(自宅外)という結果となりました。また、自宅外生の1か月の住居費(光熱費を含む)で最も多かったのが、6〜8万円です。全体の50.0%を占めました。

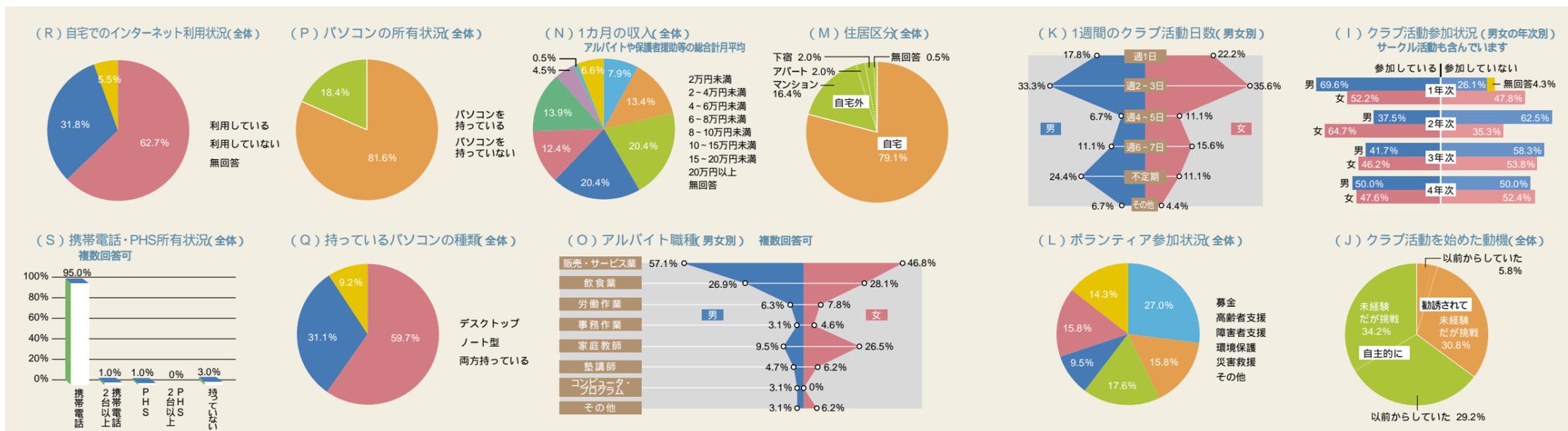
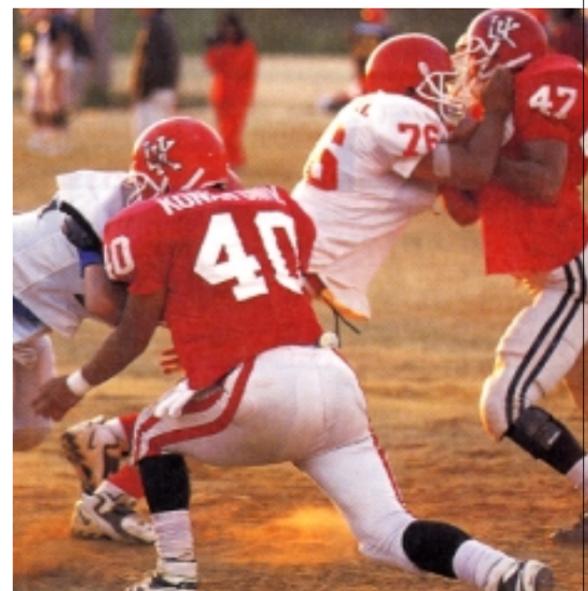


アルバイトと収支。アルバイトは全体の72.6%が行っており、その平均収入は4〜6万円未満と6〜8万円未満が中心です。中には20万円以上と答えた学生も(図N)。

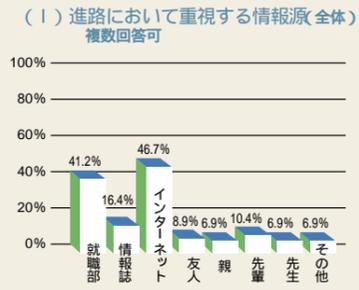
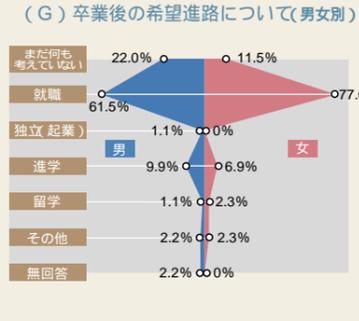
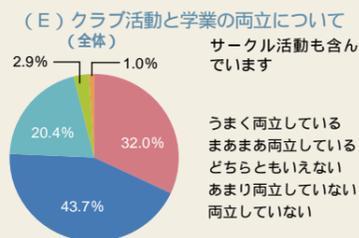
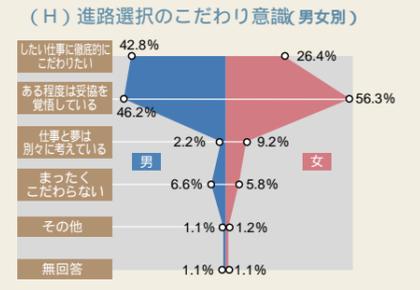
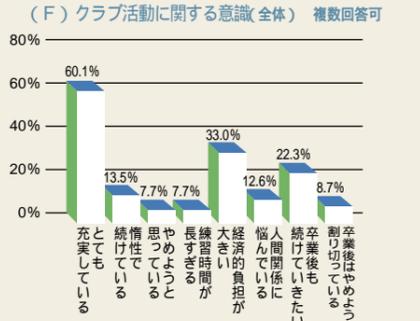
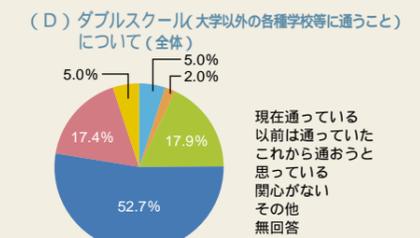
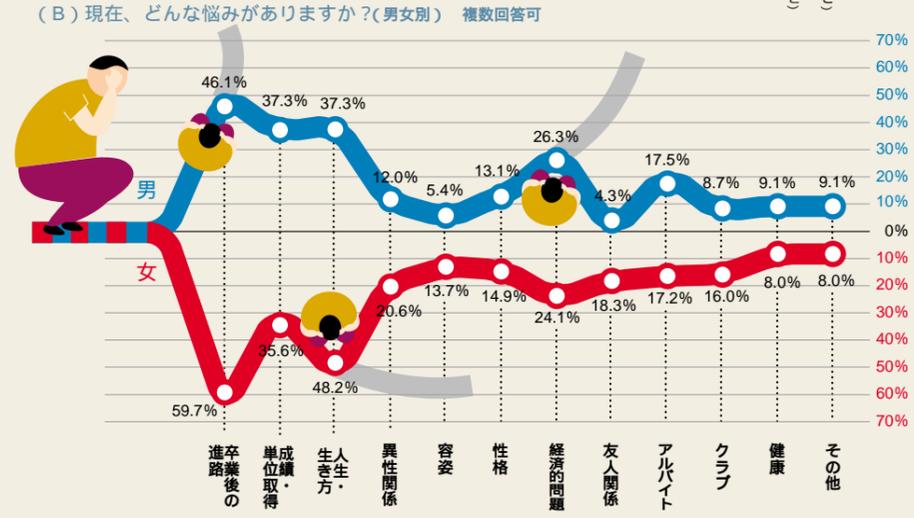
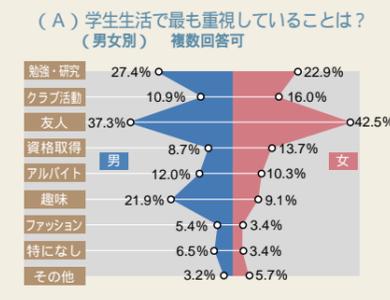
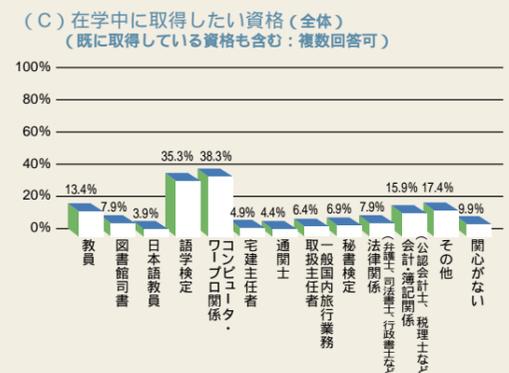
家庭での所有分も含め、8割を超える学生がパソコンを持っており、内6割が自宅インターネット

通信環境

携帯電話やインターネットといった新しいコミュニケーションツールを駆使し、合理的で能動的な情報収集を行っている現代の大学生。甲南大生も、またその例外ではありません。彼らはこのようなツールを使いこなし、高度な情報活用能力を自然に身に付けています。膨大な情報が激しいスピードで流れていく社会の中では、自分にとって必要な情報を見極め、活用する能力は必要不可欠です。今回のアンケート調査では、そんな時代をたくましく生きる学生の姿



甲南大生の胸の内



大学生活の実際
キャンパスは時代を映す鏡



「まあまあ両立している」を含むと、全体の7割以上の人がクラブ・サークル活動と学業の両立ができていたという結果が出ました(図E)。さらに全体の6割以上の人が充実したクラブ・サークル活動を感じており、楽しみながら行っています(図F)。ただし、経済的な負担が大きいという声も3割強ありました。

卒業後の進路は、ほとんどが「就職」と考えており、男子のなかには起業家を目指す人も(図G)。これを学年別で見ると、特に4年次が卒業後の進路についての意識が高いことがわかりました。また、進路選択は男子の方が、より関心を持っているのがわかります(図H)。進路選択の情報源は、就職部よりインターネットが少し上回る結果に(図I)。

なかには「現在4年次で、今までクラブ活動ばかりに力を注ぎすぎた。もっと就職のために資格取得などに関心を持つべきだったと思う」というコメントも。

卒業後の進路選択は、ほとんどが就職を希望する。なかには起業家を目指す人も(図G)。これを学年別で見ると、特に4年次が卒業後の進路についての意識が高いことがわかりました。また、進路選択は男子の方が、より関心を持っているのがわかります(図H)。進路選択の情報源は、就職部よりインターネットが少し上回る結果に(図I)。

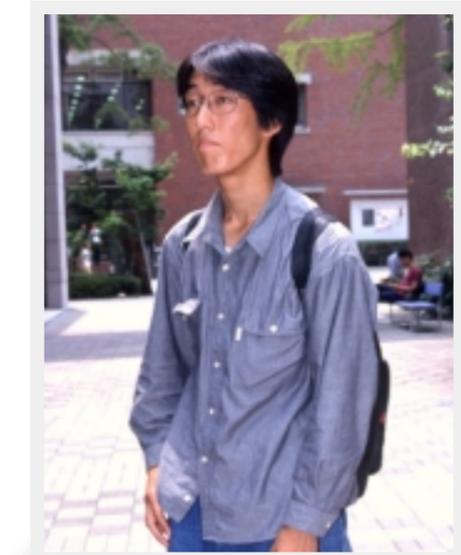


約4割が成績に悩み、4人に1人がダブルスクールに関心を示す。全体の4割弱が、成績や単位取得について悩み、さらに卒業後の進路については、男女の約半数が悩んでいるということがわかりました(図B)。またダブルスクール(大学以外の各種学校に通うこと)に関しては、現在通っている人も含め、4人に1人が関心を示しています(図D)。なかでも、「これから通おうと思っている」は、年次別にみると2年次が最も多く28.5%、次いで3年次が17.2%という結果に。これは、就職活動が本格化する前に、ダブルスクールで専門知識や技能を身につけておくという就職に対する高い意識の現れだといえるでしょう。

ある 甲南大生の日常

理学部「応用化学科」河野雅弘君の場合

クラブ活動やボランティアを通じて子供達とふれあう日々。かけがえのない時間から見つけた自分自身と充実した学生生活。そんな河野君のライフスタイルは、彼の純粋な人格を映し出していました。



一人暮らしの河野君。支出の「その他」は月により何に使うかはっきり決まっていないもの。食費も変動が激しいそうです。「つい最近も「3日で85円」で乗り切りました(笑)」とは彼の弁。

河野雅弘君 1か月の収支

支出		収入	
食費	30,000円	アルバイト	15,000円
住居費・水道光熱費	66,500円	保護者から	110,000円
勉学費(参考書籍等)		奨学金	
交通費		その他	
通信費(携帯電話等)	6,000円		
衣料費			
娯楽・交際費			
貯金	22,500円		
その他			
支出合計	約125,000円	収入合計	約125,000円

実感を感じますね。もともと子供が大好きなので、将来は保育士になりたと思っています。学業はもちろん、クラブ活動、ボランティアなど、毎日がとても充実しているという河野君。純粋で真摯な彼のライフスタイルから学ぶべきことは多いのではないのでしょうか。



将来は保育士か、化学系のメーカーを目指しています。



部屋でくつろぐ河野君。趣味はサイクリング。気分転換に近郊の自然の中へ出かけます。



文化会児童福祉研究会のクラブ活動を週に1~2回、ボランティア活動を週に2回行っている河野君。子供達とふれあう時間を大切にすることで、自身も充実した日々を過ごせるという彼。そんな河野君の真摯な姿勢が感じられるスケジュールです。



子供たちと過ごす大切な時間。河野君の生き生きとした姿が印象的です。

経済学部 3年次

武井あゆみさんの場合

10年間にわたるテニス生活をはじめ、アクティブな毎日過ごす武井さん。まずは身体を動かしてみる。彼女を見ているとそんな言葉が自然と浮かんできます。



1週間のうち、スポーツをする日が5日という、とてもアクティブな日々を過ごしている武井さん。「毎日、なにか身体を動かしていないと落ち着かない」という彼女らしいスケジュールです。

兵庫県出身の武井さんは、経済学部の3年生。自宅から片道70分かけて通学しています。武井さんは約10年にわたって軟式テニスを続けており、甲南大学でも体育会スポーツ愛好同好会ソフトテニス部に所属。さらに週に3回、スポーツジムでエアロバイクにも通うアクティブな女性です。



テニスに夢中の武井さん(右)ですが、ゆくゆくは留学し、異文化にもふれたいそう。

り、節約を心がけています。衣服も基本的には去年着ていたもので事足りるので、あまり買わないですね。貯金をする理由。それはテニスのため。この夏には合宿で岐阜県へ、試合遠征で山梨県と千葉県へ行きます。そんな武井さんは昨年、1999年関西学生ソフトテニス愛好会選抜新進戦で優勝をおさめた実力の持ち主です。

アルバイトでは、テニススクールのフロントと家庭教師をこなしく、アルバイト代は合宿の積立やスポーツジム、携帯電話料などに使っています。



アルバイトのテニススクールで、笑顔で対応する武井さん。



友達とキャンパスでひととき楽しくおしゃべり。

武井あゆみさん 1か月の収支

支出		収入	
食費	13,000円	アルバイト	80,000円
住居費・水道光熱費		保護者から	13,000円
勉学費(参考書籍等)	2,000円	奨学金	
交通費	13,000円	その他	
通信費(携帯電話等)	14,000円		
衣料費	5,000円		
娯楽・交際費	15,000円		
貯金	31,000円		
その他			
支出合計	約93,000円	収入合計	約93,000円

自宅から通学している武井さん。アルバイトでの収入が80,000円。そのうちの31,000円を、テニスの合宿や試合遠征のために貯金しています。





Box Close-up



体育系 『陸上競技部』

クラブ紹介

Box Close-up

高い自主性と行動力が自慢の陸上競技部は、甲南大学で最も古い歴史を誇るクラブです。現在、関西学生陸上競技連盟の1部校に所属。また、関西学生対校駅伝でも昨年は8位の成績をおさめ、今後はさらに上位に入賞することを目標に掲げています。

練習は週5日、甲南大学六甲アイランド陸上競技場で行い、主将を中心に、短距離・中距離・跳躍・投擲の各競技別にバート長を設け、日々、トレーニングに励んでいます。また、学生自身がクラブの運営や、練習メニューの計画を

立てて実践していますので、高い行動力が自慢。選手一人ひとりの自主性を尊重し、それぞれが弱点の克服を考えながら計画を立てています。

現200mの日本記録保持者で短距離界のエース、新井初佳さん（ヒップフジモト所属）は同クラブの出身です。甲南大学在学時代は、明るく人気者だったという彼女、今では日本で最も活躍が期待されるランナーの一人に成長しました。

また、同クラブでは陸上競技部の活動をまとめたOBによるホームページも公開中。
<http://www.cam.ni-no.ne.jp/sobel/seib/>、アクセスしてみてください。

与えられた課題については、「こういう場合はどうなるのか」と自分たちで積極的に取り組んでいく姿勢が実に印象的です。後期は新設された法廷教室での模擬裁判が予定されています。テーマは、女子学生が指導教授からセクハラを受けたとしてする損害賠償請求訴訟。裁判はもちろん、一般に公開されます。

授業は毎週、1つの班が課題について作成した小問を中心に、グループ討論を交えながら進められます。全員が意見を交わすので、授業中はか

なり白熱することも珍しくありません。みんな恥ずかしがらずに自分の思ったことを積極的に発言します。自主的で能動的な生徒が多いのもこの授業があるからではないでしょうか。

また、イベントが多いのも渡辺ゼミの特長。法廷見学など研究活動の参考になる体験はもちろん、バーベキューやハイキングなども盛んです。まさに、楽しく学ぶというアットホームな雰囲気の中で、ゼミ生たちはかけがえのない友情も育んでいるようです。

進歩は日進月歩であり、常識に安住すると沈滞あるのみ。新技術の開発と既存技術の改善の両方に成果がなければ明日を生きることができません。このような認識のもとに、卒業研究または大学院での研究を行うことは、研究者・技術者としての芽を育む意味でも大切なことです。

研究室の大学院生は、企業参加の多い学会での研究発表を通じて、各研究について学外評価を受けることにより、研究の方向性や内容を再認識できるような研究スタイルを

採用。この特徴的な研究スタイルは、就職にも有効です。

現在、研究室は修士課程学生8名、学部学生8名、企業からの研究生3名で構成。アットホームな雰囲気の中で、個々の研究課題に取り組んでいます。「研究成果にこだわることなく研究者・技術者としての芽を育む」、そして、「1よりもONLY1を目指す」。この2点を大切に、今日も研究が行われています。

ゼミを通して、深まる絆。楽しく学ぶ中で得るかけがえのない学友たち。夫婦や親子関係、相続など、家庭内の法律問題にはさまざまなケースが考えられます。その事件処理の管轄は家庭裁判所か、それとも地方裁判所か、そこにどんな違いがある

のか。渡辺ゼミでは、このような家族をめぐる法的紛争に関する全般的な問題をテーマに研究を行います。

前期は、遺産相続を中心に、国籍法に至るまでグローバルな領域での議論展開がされました。相続財産や国籍の問題などは、ゼミ生の将来にも関わる、とても身近なテーマ。



Seminar

ゼミ訪問

研究成果にこだわることなく1よりONLY1を目指す「エレクトロニクスに関連する無機機能材料の創製」、具体的にはパソコン、携帯電話等に使用される種々の電子部品材料の新規開発を目的とした、電気化学プロセスによる



採用。この特徴的な研究スタイルは、就職にも有効です。現在、研究室は修士課程学生8名、学部学生8名、企業からの研究生3名で構成。アットホームな雰囲気の中で、個々の研究課題に取り組んでいます。「研究成果にこだわることなく研究者・技術者としての芽を育む」、そして、「1よりもONLY1を目指す」。この2点を大切に、今日も研究が行われています。

Seminar

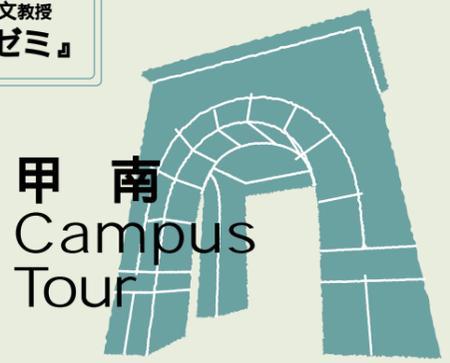


法学部 法学科
渡辺 武文教授
『渡辺ゼミ』

Laboratory



理学部 応用化学科
縄舟 秀美教授
『無機工業化学研究室』



甲南 Campus Tour

学生の目線で巡る 甲南大学

平成13年度より、理学部機能分子化学科に変わります。

atory

研究レポート

機能性（導電性、磁性および化合物半導体等）薄膜の形成、膜特性および成膜メカニズムに関する研究を行っている無機工業化学研究室。

主な研究テーマは、ULS I微細配線の形成を目的とした湿式成膜法の開発、樹脂の表面改質を利用する機能性薄膜の形成、環境対応型鉛フリースズ基合金の電析。このような研究テーマとの関係から、エレクトロニクス関連企業との共同研究を通じて、研究成果の実用化についても積極的に取り組んでいます。

技術的常識は過去からの貴重な遺産ですが、科学技術の

甲南大学の
教員が執筆した

ブック
紹介

『量刑法の生成と展開
量刑法研究 第二巻』



松岡正章 著
成文堂
¥6,500(税別)

『文化地理学の系譜』



久武哲也 著
地人書房
¥9,000(税別)

『韓国の経済システム
国際資本移動の拡大と構造改革の進展』



高 龍秀 著
東洋経済新報社
¥3,200(税別)

『大学生がカウンセリングを求めるとき
こころのキャンパスガイド』



高石恭子・
小林哲郎・
杉原保史 編集
ミネルヴァ書房
¥2,200(税別)

野に
入れた
教育・研究
を重視して
いきます。



**理学部
在学生のみなさんへ**

現在、理学部に在学する学生諸君については、在学中は現在のままの所属であり、現在の各学科の所定の単位を修得すれば、いずれの学科であっても学士(理学)になり変更はありません。卒業後に卒業証明が必要なきも、理学部「学科」の卒業証明書になります。ただし、現在、理学部長「名が記載されている文書(たとえば卒業証書)」に、平成13年度からは「理学部長」名が記載されることになりましたが、実質的には従来と変わりません。

人類の未来を、「歴史」と「地域・環境」から
見つめる人材を育成するために

甲南大学は開学以来、学部・学科の充実をはかり、現在の5学部・大学院を擁する総合大学として発展してきました。21世紀を迎えるにあたって、甲南大学はさらに新しいコンセプトを持つ「学び」の創造を目指して、2001年度4月、文学部に『歴史文化学科』を新設し、理学部を理工学部に変更します。

文学部は現在、日本語日本文学科、英語英米文学科、社会学科、人間科学科の4学科で構成されていますが、『歴史文化学科』の誕生により、5

学科となります。『歴史文化学科』は日本史、アジア史、西洋史の各領域をカバーする歴史学と、地域の特質を追究する人文地理学と民族学の専門研究者が、人類の歴史遺産と地域のテーマのもと、

未来志向の研究を展開する学科です。そしてその特色は歴史という時間軸と、地域・環境という空間軸を併せ持つこと。とりわけ甲南大学が立地する神戸の歴史文化に着目し、地域の未来創造に寄与することを視野に入れた教育・研究を重視していきます。

KONAN
21

2001年
新生甲南大学誕生

2001年度より、
文学部に『歴史文化学科』が誕生。
理学部は『理工学部』として
スタート



理学と工学の融合で、次代のサイエンスとテクノロジーを見つめる

純粋理学と応用理学の融合から、新たな自然科学の世界へ。理学部から理工学部への移行により、

学部の性格は、「応用系」の色彩が強まり、時代の変化や科学技術の新たな展開のもとで、社会的要請により応えられる教育研究を目指します。

理工学部は、物理学科、生物学科、機能分子化学科、情報システム工学科の4学科で構成。次代の科学・技術に対応した創造力を身につけることを重視し、新時代に求められる人材を育成します。



Box Close-up



文化系
『能楽研究部』

クラブ紹介
Box
Close-up

1949年創部。12月には、51周年記念公演を大阪で開催します。

文化系能楽研究部は、旧制甲南高等学校時代である1949年に創部。今年で51周年を迎えました。能楽とは、舞と歌を主な要素とする日本独特の仮面楽劇のこと。

毎年、6月には関西学院大学・神戸大学との『神戸三大学合同舞台』を、3月には学習院大学との『甲南大学・学習院大学定期交換舞台』を開催。他大学との舞台交流を積極的に取り入れた活動を展開しています。

また、毎年11月に開催する恒例の『演劇祭』では、プロの能楽師の方を交え、舞囃子(能楽などの演奏の拍子をとつたり、舞台の気分をもちたてる伴奏音楽)や能(猿楽から発展した歌舞劇)を上演。昨年は「田村」「賀茂」「清経」などの演目を上演、好評を博しました。

仲良く、はじめのある練習を常に心がけている能楽研究部。普段は学生を中心に、舞台前には能楽師の方の指導を受けて演技全体の完成度を高めます。仕舞(能などで演舞・演技すること)や謡(能楽の詞章に節をつけてうたうこと)など、能楽練習場で日々、練習に励んでいます。

今年、12月17日には創部51周年記念公演を大阪能学会館で開催。「安達原」や「船弁慶」を上演する予定。どんな舞台を見せてくれるのか、今から注目されます。

世代を越えて 受け継がれる

甲南大学へは、愛校心の湧く大学なのではないかと思ひ入学しました。大学生活では、留学生のサポート団体（学外）でのボランティア活動、経営学部学生



甲南 スピリッツ

協議会での新入生歓迎セミナー、卒業レセプションでの裏方等を通して、多くの友人、先輩、後輩、先生方と出会いました。出会いを通して、さまざまな感動を与えてくれた甲南大学ですが、私が考える甲南スピリッツとは、何事も自分1人で成し遂げたと思わず、常に周りの人達に感謝する心を持つ」ということでしょうか。実際、甲南大学のキャンパスにはそういった人達がたくさんいて、今の私に多大な影響を与えていると感じます。

した経験があったからだと思います。甲南大学の自由な学風は、自分がしたいことができる機会と出会いを多く与えてくれます。後輩の皆さんにも、後悔しないようどんどんチャレンジして欲しいと思います。

れました。子供達と信頼しあえる関係を築き、またリーダーシップが培えたことが自分にとって大きな収穫でした。そんな中で、私が育んだ甲南スピリッツは、「自由と助け合いの友情」。社会の中で人と協調して仕事を進めることができるようになったのも、こうした経験があったからだと思います。甲南大学の自由な学風は、自分がしたいことができる機会と出会いを多く与えてくれます。後輩の皆さんにも、後悔しないようどんどんチャレンジして欲しいと思います。

経営学部 4年次
伊達 紮子さん



1997年
経営学科入学

1997年
法学部
法学科卒業



松下興産株式会社
人事部 人事課 勤務
勝山 嘉久さん

甲南 通信

TOPICS

2000年度 甲南大学教育懇談会を開催

6月24日、甲南大学本校舎において2000年度甲南大学教育懇談会が開催されました。参加者人数は623人。懇談会は、吉沢英成学長による「挨拶」と各学部長の紹介が行われ、引き続き就職部長である渡邊和俊経営学部教授による講演会にはいりまして、「最近の就職戦線」をテーマに行われた渡邊部長の話に、皆さん、興味深く聞き入っておられました。続いて、学部別による学修相談、就職相談等が行われ、「こちらも同じく熱心な話し合いの場」に。その後、図書館や情報教育センター等による課外活動発表が行われました。甲南大学教育懇談会には、参加者から、「大変わかりやすい講演だった」、「父母と大学の関わりは薄いものだと思うが、こうした機会があれば、大学のことが様子がよくわかる。今後でもできるだけ続けてほしい」、「充実した講演が聞けて満足」等のコメントをいただき、好評のうちに幕を閉じました。



ドイツ語弁論大会 弁論の部で、 文学部人間科学科・奥村祐加さんが 第1位を獲得

6月17日に開催された神戸大学医学部ドイツ語研究会・関西ドイツ文化センター(GOETHE INSTITUTE KANSAI)主催の、第5回ドイツ語弁論大会において文学部人間科学科3年次の奥村祐加さんが、弁論の部の第1位に輝きました。テーマは、「言葉の可能性」。聞くことや、相手のために話すことの大切さを軸に「コミュニケーションにおける言葉の可能性について熱く弁論しました。奥村さんは昨年、ドイツのライプツィヒ大学の夏期語学講座に参加。今年9月には同大学へ1年間の留学が決定しています。語学習得や心理学だけでなく、さまざまな国の人達との交流が楽しみという奥村さん。留学後は大学院に進み、臨床心理士の資格を取得したいそうです。



Deutscher Redewettbewerb
第5回 ドイツ語弁論大会

修士課程	博士後期課程
日本語日本文学専攻	日本語日本文学専攻
英語英米文学専攻	英語英米文学専攻
応用社会学専攻	応用社会学専攻
人間科学専攻	人間科学専攻

(設置認可申請中)



東海地区大学教育懇談会

【日時】10月22日(日)13時
【場所】名古屋市国際サロ(名古屋ビル9F)

2001年度 人文科学研究科に 人間科学専攻博士後期課程を設置

甲南大学大学院人文科学研究科では1999年に人

お便り募集のお知らせ

「甲南 Today」では、皆様からのお便りを募集しています。お寄せいただいたお便りをもとに、誌上で皆様との交流を深めてまいりたいと思います。本誌同封のはがきにご意見等ご記入のうえ、お送りください。

EVENT GUIDE SCHEDULE

10月

故・山本栄治教授追悼講演会 (10/7)
 秋期公開講座 (10/14-11/18)
 図書館ライブ・コンサート (10/19)
 経営学部開設40周年記念講演会 (10/21)
 東海地区大学教育懇談会 (10/22)
 甲南・イリノイプログラム
 開設25周年記念公開講演会 (10/31)

11月

第36回摂津祭
 演武祭・体育祭 (11/22)
 演劇祭
 会場：西宮市民会館アミティホール (11/22)
 New Age Festival・体育祭 (11/23)
 学術祭 講師：ゾマホン・ルフィン氏 (11/24)
 Campus Festival・プロコンサート
 電撃ネットワーク他出演 (11/25)
 音楽祭 (11/26)
 個別入試相談会 (11/25)
 1・2年次父母就職説明会 (11/25)

12月

講義一日終了 (12/22)
 冬期休暇開始 (12/25)

1月

冬期休暇終了 (1/6)
 講義再開 (1/9)

甲南Today No.2

【発行日】2000年9月25日
 【発行】甲南学園広報室
 〒658-8501
 神戸市東灘区
 岡本8丁目9-1
 TEL(078)31-434(代)
 【印刷】大日本印刷株式会社

甲南フォーラム

皆様からの
お便りでつくる
コミュニケーションスペース

厳しい就職戦線に力点を置かれた教育指導は実践的であり、父母としても力強く感じております。(兵庫県 経営学部・父)

子供が3年次となり、やはり就職に関する記事が気になります。息子は応用科学科にて学んでいるのですが、あまり内容を話しませんので、先輩方の職域等、知りたいです。自宅より少し遠方となりますので、甲南大学のことをあまり詳しく知りませんでした。その分、大変興味深く読ませていただきました。(滋賀県 理学部・母)

最近の甲南大学の状況等がわかる非常に良い冊子だと思えます。今後とも甲南関係者と私ともこの情報の架け橋として期待しています。(愛媛県 理学部・父)

私達、親の学生時代と違って、今の状況がわからないので、このような子供の学校や社会的状況が具体的にわかる情報誌が助かります。子供たちが現在置かれている立場や、また具体的な問題点、またその対策など知りたいです。(大阪府 経営学部・父)

平生執三郎氏関係記事が私には最も印象的でした。また、トウレーヌ甲南学園の動静についても関心を持っていますので、以上の記事の展開を期待しています。

甲南フォーラムは、皆様からお寄せいただいたお便りでつくるコーナーです。皆様と甲南Todayスタッフと父母間を結ぶコミュニケーションスペースとして活用いただければ幸いです。今回は、第1号「特集」就職・進学、それこそ「？」に対してお寄せいただいた皆様からの声を紹介します。

開を期待しています。(長崎県 文学部・父)

甲南大学をより知る上で、大変参考になりました。今後とも密度の高い記事を期待しております。特に特集は興味深く関心をもちつつ拝読しました。お写真、ご本人のコメントで、学部長の紹介を掲載してください。

(広島県 経営学部・父)

子供から聞けない話題が取り上げられていて、興味深かったです。我々の頃と違い、就職も早くより見通すことになったのは大きな違いと感じました。今後は、体育会の各部の試合結果や、学食メニューと価格紹介コーナーなどを取り上げてほしいです。(兵庫県 法学部・父)

保護者と大学とを結ぶ冊子が出来て、大変良いことだと思えます。甲南大学周辺のお店の紹介や、名物教授の紹介などが取り上げられるとうれしいです。(兵庫県 文学部・父)

この記事も、内容をよく検討されていると思いましたが、関係者の方々の努力のあとが見えませんでした。さらに磨いていってください。期待しています。(兵庫県 経営学部・父)

多数のご意見、ありがとうございます。今後の甲南Todayに期待ください。

35年越しの夢がかない、一部復帰を果たしたサッカー部

5月20日、体育会サッカー部が神戸大学に勝利し、35年ぶりに関西大学一部リーグ復帰を果たしました。昨年の天皇杯出場、今年に入っての一部復帰と絶好調のサッカー部。勝つためのトレーニングをしていけば必ずそれなりの結果は出るはず。全国で活躍できるようにがんばっていききたい」と桂監督。これからのサッカー部の活躍が楽しみです。

軟式野球部が2年ぶりに22回目となる全日本大会出場

体育会軟式(準硬式)野球部が、8月17日から長崎で開催された第52回全日本大学準硬式野球選手権大会に出場。今年のチームは、攻守ともにバランスがとれ、近畿六大学春季リーグ戦を31年ぶりに全勝で制し、続く関西大会も、見事、強豪大学を破り、全日本大会へ出場。残念ながら2回戦で九州産業大学に惜敗。今後の活躍が一層期待されます。

2000年度前期未卒業式・学位記授与式挙

2000年度の前期未卒業式は9月20日午前10時から121号講義室で行われ、125人の学生が社会人としての門出を迎えました。各学部代表に卒業証書が手渡されたあと、式辞で吉沢学長は新社会人への激励の言葉を贈りました。卒業生の内訳は次のとおり。文学部16人、理学部18人、経済学部22人、法学部32人、経営学部35人、大学院社会科学研究所修士課程法学専攻2人。



学生サービスの向上を目的に、インフォメーションコーナーを設置

10月から試験的にインフォメーションコーナーを設

就職情報

3年生対象

12月18日・19日	論・作文対策講座	10月3日・7日	第2回就職ガイダンス
12月中旬	公務員・教員合格報告会	10月10日・12日	自己分析講座
12月13日・15日	登録票の提出	10月19日/SPI10月23日・26日	就職模擬テスト(適性10月16日・19日/SPI10月23日・26日)
12月6日・7日	SPI対策講座・テスト12月14日	10月下旬	就職講演会
11月30日・12月1日・2日・5日・6日	第3回就職ガイダンス		
11月27日・28日	SPI対策講座		
11月下旬	業界研究セミナー		
11月18日	OB・OG懇談会(業種別)		
11月15日・16日	論・作文対策講座		
11月中旬	公務員ガイダンス		
11月4日	カレッジTOEIC		
10月30日・11月1日	エントリーシート対策講座(学部別)		
6日・8日・10日			

「これは甲南大生のさまざまな問い合わせや相談に際するコーナーです。3号館1階のロビーにて、月々金曜日10時~16時、土曜日は10時~13時に開設。同じく10月からインターネット(学生部・よろず相談箱)でも相談の受付を開始します。

「その他のトピックス」

- 【6月3日】総合研究所講演会(講師・奥村彪生氏)
- 【21日】図書館ライブ・コンサート
- 【27日】経営学会講演会(講師・木村政雄氏)
- 【7月8日】3年次父母就職説明会
- 【29日】学生相談室講演会(講師・河合雄雄氏)
- 【8月4日】社会人講座「言語と文化」開講
- 【12日】オープン・キャンパス(5月まで)
- 【24日】大学洋上セミナー(10月開講)(9月10日まで)
- 【9月1日】理工学部の学部学科説明会
- 学校荒らしの逮捕に協力
- バスケットボール部員に東灘署から感謝状
- 【16日】社会人講習会「言語講座」開講(12月9日まで)
- 【21日】2000年度後期講義開始

甲南Today No.3 予告

2000年12月下旬発行予定
特集
求む国際人
進む国際化と
甲南大の国際教育
甲南大学
国際交流プログラム

編集後記

空が澄みわたり、秋風が心地よい季節となりました。創刊号はおかげさまで多方面の読者の皆様からの思いがけない反響をいただき、またご父母の方々からも57通(8月末現在)のお便りをいただき、感謝しております。今の特集「大学生活の実感」は、いかがでしたでしょうか。学生の皆さんにアンケート等のご協力をお願いし、それをもとに甲南大学生のライフスタイルに迫ってみました。創刊号以上に力を入れた内容をお届けできるように工夫したつもりです。また、忌憚のないご意見、ご感想をお待ちしております。次号では、21世紀を迎え「国際交流」をテーマに甲南大学の国際性にスポットを当ててみたいと思えます。ご期待下さい。